

あぐり情報

営農生活課

中村 好仁



ハウスの雪対策

今回はハウスの雪対策について紹介します。

ハウスの耐雪強度を上回る積雪があった場合、雪の重みに耐えられず、屋根が陥没するなどの被害が主に見られます。

真上から屋根が押しつぶされたように陥没



■保守管理と補強対策

園芸用施設（特にパイプハウス及び使用年数の長い鉄骨ハウス等）の降雪・積雪の対策として次の点に、留意してください。

・天気予報や気象庁などの行政情報を収集し、予報に応じて事前に対策する。

・やむを得ず積雪後に対処する場合は、必ず複数人で作業し、積雪直下での作業はしない。

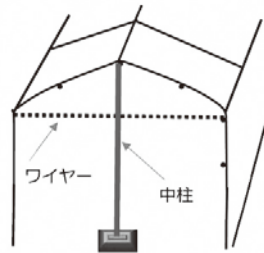
・破損が著しく、解体が必要な場合は、部材を外した時にパイプの跳ね返りなどで怪我をする可能性があるため、できるだけ業者や経験者の応援を要請すること。

○パイプハウスの補強

パイプハウスは必要に応じ、応急補強用の支柱や筋交い等を取り付けて補強します。支柱を使用する場合は、棟部主管（主骨材）を支える位置に、できれば3～4mおきに取り付けると効果的です。ジャッキやベース付きの支柱を利

用すると、積雪後の高さ調整も可能です。ブロック等でも代用可能です。

また、ハウス両肩をワイヤー等で引っ張る様に固定すれば、屋根雪によるハウスの広がりを抑えられます。なお、補強部材について予め利用しない場所に整備、保管しておくように心がけてください。補強は絶対ではありません。融雪対策と併せて活用してください。

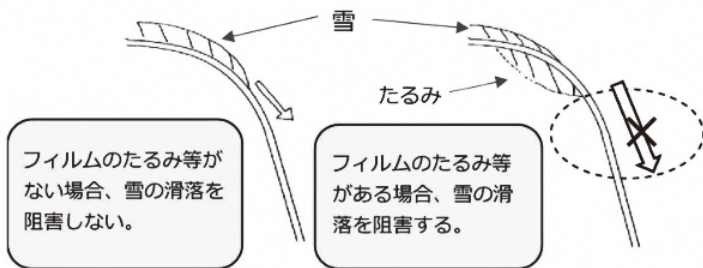


○ネット・外部遮光等の撤去

降雪が予想される場合、屋根被覆資材の表面に雪の滑落を妨げるような突出物がないかを事前に点検します。特に防風・防鳥ネットや外部遮光等は滑落の妨げになるため、降雪前に必ず撤去してください。

○外張りフィルムのたるみ・破れ補修

外張りフィルムのたるみや破れは、雪の滑落を阻害するので降雪前に補修してください。また、筋交いやパイプジョイントの外れ等も確認し、異常が確認された場合は速やかに補修してください。ハウスバンドのねじれと緩みを修正してください。



フィルムのたるみ等がない場合、雪の滑落を阻害しない。

フィルムのたるみ等がある場合、雪の滑落を阻害する。



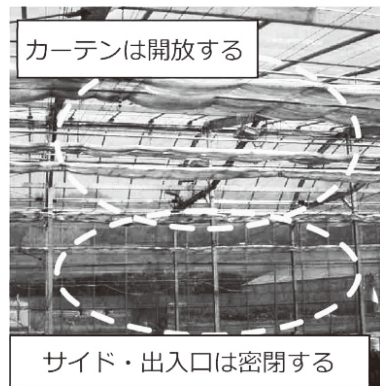
○暖房用燃油残量、配管・電線の破損確認および補修

暖房機を利用している場合は燃油残量を確認し、できる限り満タンにしておいてください。また、暖房機やカーテン等の付帯設備電源、配管・配線に異常がないか、降雪前に確認してください。破損が確認された場合は速やかに補修してください。

○暖房機での屋根雪の融雪対策

暖房機が設置されている場合は、内部被覆(二重カーテン)を開放した上で可能な範囲で室温を高める事で、屋根雪の滑落を図ります。カーテンの作動に問題がないかを確認し、異常が確認された場合は速やかに補修してください。

※雪に関する警報・注意報等が発令されており、圧壊の危険性が高い場合は温度サーモを利用しない非常時運転(強制連続運転)にするか、各メーカーの説明書、ホームページで対応を確認してください。



■降雪時・降雪後の処置

基本的に降雪前・降雪初めの作業を継続して行います。降雪が続く場合は、降雪の勢いが弱まった後、施設の安全が確認された時点で確認・除雪作業等を行ってください。また、作業は単独で行わず、複数人で対処するようにしてください。

○作業の安全確認

降り始めの屋根への積雪がほとんど見られない場合は、安全を確認した上で作業を行います。積雪による屋根や被覆資材への負荷・変形が確認できる場合は施設倒壊の可能性があるので、内部への侵入は控えてください。

※脚立やはしごを利用する場合は、必ず脚を支えてもらう等、一層の注意を払ってください。

○除雪後のハウス点検

降雪後、施設倒壊の恐れがなくなったことを確認の上、ハウス各部の損傷や緩み等を総点検してください。

○栽培管理の復旧・事後対策

破損が著しく、解体が必要な場合は、部材を外した時にパイプの跳ね返り等で怪我をする可能性があるため、できるだけ業者や経験者の応援を要請してください。

変形により、想定されない方向に荷重がかかっている可能性があります。外すときは複数人で状態を確認しながら解体してください。事前の対策と、迅速な事後対応を心がけ、被害を最小限にとどめましょう。

